VELOREX　Press release　　2026 年 9 月 20 日

2026 SUPER GT Rond 6, SUGO GT 300km RACE

「攻めのレースで追い上げ続けた VELOREX のふたり。

15 番手から首位まで浮上し、最終的に 9 位入賞ポイントゲット！」



●9 月 20 日（決勝）

大型台風 25 号の影響が心配されたスーパーGT 第 6 戦『SUGO GT 300 KM RACE』、決勝レース当日は、午前中に降った雨も上がり、決勝レースは一部が濡れた路面の中、全車スリックタイヤを装着してのセーフティカースタートとなりました。

午後12時から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温22℃、路面温度25℃で、路面はまだ濡れており、ウェットタイヤを装着しての走行となりました。6 号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は、ニクラス・クルッテン選手がステアリングを握ってコースイ

ン。20分間という限られた時間の中で、決勝レースに向けての最終的なセットアップを決めるべく周回を重ねました。途中、片山義章選手に交代し、トータル11周をこなして7番手となる1分24秒876をマークしてセッションを終了。マシンのバランスは良く、チームは決勝に向けての自信を深めました。

心配されていた雨は上がりましたが路面が完全に乾くほどの陽射しではなく、ラインを外れるとウェットパッチが残っている部分もあるという状況の中、主催者は交通機動隊による先導パレードを中止し、セーフティカースタートを発表しました。6号車はグリッドに向けての試走ではウェットタイヤを装着していましたが、グリッド上でスリックタイヤに交換しました。ウェット宣言は出されたものの、路面コンディションは次第に好転しそうな状況でしたので、GT500クラス、GT300クラス共に全車スリックタイヤを装着してのスタートとなりました。

午後1時 30 分、気温23℃、路面温度25℃というコンディションの中、スタートが切られました。スタートドライバーはニクラス・クルッテン選手が務め、15番手グリッドからタイヤを温めながら隊列に続きます。レースは4周終了後、5周目からセーフティカーが退く本格的なスタートが切られました。

6 号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は、序盤は 15 番手を走行しながら、10 位争いの集団の中で戦っていましたが、次第にポジションを上げ、13 周目に 14 番手、14周目に 13 番手とポジションをアップ。

27周目に最終コーナーでコースアウトして戻ってきた GT300車両がスピンし、そこにGT500車両が突っ込むアクシデントが発生し、FCYが出され、続いてセーフティカーが導入されました。33周目にレースが再スタートとなり、数台のマシンが最初のピット作業に入ります。

84 周レースの 3 分の2以上をひとりのドライバーが走行することはできませんが、チームはギリギリまでステイアウトすることを選択。ライバルたちがピット作業に入る中、6号車は 33 周目に10番手、36 周目に 8 番手、37 周目に 7 番手、そして 40 周目には 4 番手、46 周目には 2 番手へと浮上。ニクラス・クルッテン選手のペースは速く、トップとの差を縮めつつある中、ついに 49 周目に 6 号車がトップに浮上したところでピットインし、片山義章選手に交代しました。チームは素早い作業で燃料補給とタイヤ交換を終え、片山義章選手は 13 番手でレースに復帰しました。

レース中盤から後半にかけて、6 号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は快調なペースで飛ばします。しかしスポーツランド SUGO の道幅は狭く、抜きにくいサーキットのため、なかなか前を行くマシンをパスするのは難しいサーキットです。そんな中で、片山義章選手は 60 周目には11番手まで浮上し、前を行くマシンを次第に追い詰めていきます。

VELOREX
PRESS RELEASE

ポイント獲得まであと1台となった片山義章選手はハイペースで前のマシンを追い詰め、ラスト2周で 10 番手に浮上。そしてそのままチェッカーを受けましたが、前を行く 1 台のマシンにペナルティが課されたため、正式結果は 9 位入賞、見事ポイント獲得を果たしました。



■片山義章選手のコメント

「ウォームアップ走行では完全に路面が濡れている状況でしたが、天気予報は雨が降らない方向になっていたので、決勝レースは難しいレースになるなと思っていました。ここは狭いコースですし、完全に乾くまではラインを外れると水たまりがあったり、ピックアップがあったりするので、さらにオーバーテイクが難しくなるのがスポーツランドSUGOです。セーフティカースタートとなったおかげで、スリックタイヤが温まってから実際のレースがスタートした形ですが、やはりニクラス・クルッテン選手も集団の中で抜きあぐねる状況が多くみられました。それでも自分たちのマシンには速さがありましたし、彼のペースも良かったので、最後まで引っ張って自分に交代し、自分はライバルたちよりフレッシュなタイヤで攻め続ける戦略でした。ヨコハマタイヤは素晴らしく、思いっきり攻めるレースができました。第1コーナーで何台か抜きましたが、最後にアウトから抜いた時は、自分でもエキサイティングな気持ちでした。

今回のレースは内容的には悪くなかったと思います。予選でのポジションこそ悔やまれますが、決勝ではペースも良かったですし、フェラーリ 296GT3・EVOのパフォーマンスも素晴

しいものがありました。もちろんチームも良い仕事をしてくれましたし、我々ドライバーも頑張ったと思います。次回のレースでは予選順位をもう少し上げて、優勝争いができるよう頑張ります。応援よろしくお願いします」



■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「スポーツランドSUGOは好きなタイプのサーキットですが、雨に濡れて、路面が乾き始めていく状況では、レコードラインしか乾いてないからラインを外れてオーバーテイクしようと思うと水たまりがあったり、ダスティだったりして、抜くのがとても厳しいサーキットでもあります。ウォームアップ走行でマシンのバランスが良く、決勝はいけるなと思っていたのですが、思いのほか抜くのが難しく、セーフティカー解除のタイミングでミスしたこともあって、なかなか前に行けませんでした。それでも気を取り直して集中して攻め続けたところ、どんどんペースも良くなって、自分たちの本来のポテンシャルを発揮できたと思います。タイヤのピックアップに苦しんだ部分もありましたが、序盤のコンディションでは誰もが同じ状況ですし、片山義章選手のスティントでは、まったく問題無かったようです。今日は我々にとって良い1日だったと思います。次のオートポリスに期待して、チーム一丸となって頑張りたいと思います」

VELOREX

PRESS RELEASE



■小倉啓悟チーム監督のコメント

「今日のレースは、全体的には良いレース内容だったと思います。路面が濡れていたウォームアップでもマシンのバランスは良かったですし、速さもありました。決勝はセーフティカースタートとなって、抜きにくいサーキットだけに厳しい展開になるかと予想していましたが、ニクラス・クルッテン選手のペースが良かったので、戦略的にドライバー交代を遅らせました。セーフティカー明けで、ちょっとミスしてポジションを落としてしまったのは痛かったですが、それからのペースは素晴らしかったので、トップに立って GT500 車両のスペースを見ながら一番最後にピット作業を行ないました。その戦略は正解だったと思います。

片山義章選手もコンスタントでペースも速く、アグレッシブな走りを見せてくれました。特に終盤の10位争いは意地でも抜いてくるという気迫がありましたね。最終的な結果は9位ということで、最低限の目標であったポイント獲得はできました。次のオートポリス戦では、例年と違ってウェイトを積んだ状態でのレースとなるので、厳しい戦いになるかとは思いますが、今日のレースを振り返れば、二人のドライバーに速さはありましたし、エンジニアたちは素晴らしいマシンを仕上げてくれました。もちろんメカニックたちのピット作業も良かったですし、もう少し予選順位さえよければ、優勝争いに加わるポテンシャルはあったと思います。残り2大会3レースですが、最後まで諦めず、ひとつでも上の順位を目指して頑張りたいと思います。応援ありがとうございました」

■本リリースに関するお問い合わせ：チームルマン広報部：info@teamlemans@co.jp